

戦時下の史実と 人びとの経験から学ぶこと

講演要旨

外村大 先生（東京大学大学院教授）

2017年10月1日

◎はじめに

私は在日朝鮮人の歴史を研究してきました。歴史の研究は、好きな人もいれば、いったいそれに何か意味があるのかと思う人もいるでしょう。しかも日本近代史の中でこういう研究をする人はあまりいません。今から三十年前、私が大学院生の頃、研究会で報告すると、聞いているほかの研究者からはあまり反応や質問がなく、つらいと思ったことがあります。在日朝鮮人の歴史はほとんど取り上げられず知らないのです。

しかし自分が研究してきた歴史テーマをおもしろくない、意味がないと思ったことは一度もありません。日本で朝鮮人・韓国人として生きてきた人たちの人生や活動は大変重要だと、今でも思っています。皆さんにとつては自分たちの祖父母、曾祖父母の世代の歴史は身近な人の歴史という意味で特別な価値があります。

それだけでなく日本人にとつても在日朝鮮人は日本社会を構成する一員ですし、その歴史は日本史

の一部です。違う言葉を話し、違う文化を持ち、それを大切に生きてきた人たちの歴史というのは非常に意味があります。世界的に見れば、こうした現象は珍しくありません。むしろ、一つの言語、一つの社会で、外から入ってくる人もいない社会は、実はあまりないのです。民族が交わり合って生きているのが世界の現実だし、日本、韓国もそうなると思います。そういう意味で、在日朝鮮人の歴史は非常に意味があるといつも思っていました。

研究の過程で出会った資料をいくつか紹介しましょう。今日は大阪に來たので大阪のメーデーの写真をお見せします。1924年5月1日に朝鮮労働同盟会という朝鮮人の労働団体がメーデーに参加した写真です。とても印象的な表情です。この写真はいろいろなことを考えさせてくれます。1924年の前年の1923年には関東大震災が起こっています。関東大震災で朝鮮人はデマによって殺されたというわけです。その中で、自分たちは朝鮮人だ、自分たちの権

利はあるんだということを訴えたのです。メーデーに参加すること自体が実は大変な中で、闘おうとしていた人たちの写真です。



メーデーに参加する朝鮮人労働者団体
法政大学大原社会問題研究所 所蔵

もう一つ資料を紹介します。1935年に大阪では「民衆時報」というハンゲル、朝鮮語で作った新聞が出ています。日本で生活が安定してきた中で、自分たちの情報、悩みを伝え合い、いろいろな形で権利を確立しよう、少しでもお互い助け合って生活を向上させようということで作った新聞です。